

第95回 縮小社会研究会

日時 2026年3月1日 15時～17時

場所：会場（同志社大学今出川校地・良心館305室）とオンラインの両方

会場地図：https://www.doshisha.ac.jp/information/imadegawa/imadegawa_map/index.html#campusmap

オンライン：<https://us06web.zoom.us/j/83594905575> ミーティングID: 835 9490 5575



気温上昇が問題となっていますが、それよりも早く水不足で世界が危機に陥る可能性があります。雨不足による乾燥などがすでに発生しています。また、人間の水の使い過ぎによる湖水や地下水の枯渇が発生しています。この問題について世界の水事情と具体例としてかつて世界第4位であったアラル海の干上がりを論じます。

人類は奇跡の水を枯らすのか 尾崎雄三（縮小社会研究会理事）

講演要旨： 私たち、特に先進国に居住する人々は日々使っている水の重要さをほとんど意識していないようである。しかし、水の性質とその存在は奇跡ともいえるもので、人類は、水と太陽から供給される光エネルギーの力により地球上に形成された生態系の一要素にすぎず、水がなければ存在すらしない。

人類は農業革命により安定した食糧を手に入れ、産業革命以来科学技術を進歩させて利用・発展し、人口を増やすと同時に欲望を解放し、自然への畏敬の念をなくした。農業への利用、産業への利用で水の消費は増加し、汚染も拡大した。そのツケは徐々に人類に跳ね返りつつあり、人類が水の大切さを改めて認識するべき時が来ていると思われる。

アラル海とつきあった20年 石田紀郎（市民環境研究所代表理事）

講演要旨： 発表者が植物病理学領域を離れて、環境問題（公害問題）の現場での研究活動を開始したのは1970年である。生まれた滋賀県、生活していた京都だけではなく、各地方の公害現場通いが始まり、あっという間に18年が経過した。我が国の作家会議がソ連など各国の作家などとの会議を大津で開催し、琵琶湖の環境問題を取り上げたので全面的に協力した。会議の席上でソ連邦のカザフスタンとウズベキスタンに跨って存在するアラル海の縮小が報告された。ほとんど知らない情報であったが、1日で200mも海岸線が後退したとの発言は信じられず、疑問を呈すると、それならカザフに来いと言われ、アラル海に行くことになり、20年以上も研究仲間とともに調査を続けた。綿花畑の拡大でアラル海への流水がアラルに達せず、アラル海が消滅し、流域の社会の変貌を提示させていただく。

参加費：会員は無料、非会員は500円

参加登録：非会員の方は当会（下記）まで氏名、メールアドレス、所属を連絡願います。

懇親会を18時より烏丸今出川のイーサン（タイ料理 <https://www.esan.jp>）で開催します。会費は3000円。先着30名まで。参加申込の締め切りは2月20日。参加希望者は松久まで連絡願います。

当日14時より同会場で縮小社会研究会の第14回総会を開催します。